福島社発第　２１３　号
平成２９年　２月１０日

会　員　各　位

福島県社会保険労務士会
会　長　金　子　昌　明
（公印省略）

**東日本大震災復興支援講演会開催のご案内について**

謹啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当会の運営につきまして、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、福島県社会保険労務士会では、全国社会保険労務士会連合会の支援のもとに震災から毎年、復興支援事業として無料相談やセミナーを実施して参りました。

今年度は、別添チラシのとおり福島県の産業の振興、福島県の環境の回復等をテーマに、３月９日（木）南相馬市の“ゆめはっと”において「東日本大震災復興支援講演会」を開催することといたしました。

つきましては、会員の皆さまにご参加いただきたくお願い申し上げます。

また、この機会にお知り合いの方々にもお声掛けいただく等、周知方いただきたくご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

福島県社会保険労務士会東日本大震災復興支援事業

# 復興支援講演会

**日時** 平成29年3月9日(木)　13:00～17:00

**場所** 南相馬市民文化会館「ゆめはっと」1F 大ホール
（南相馬市原町区本町二丁目28－1　TEL 0244-25-2761）

- 開　場　13:00
- 開　会　13:30

主催者あいさつ　福島県社会保険労務士会会長　金子　昌明

| | |
|---|---|
| 第1部<br>13:40～15:10 | **今こそ創造的復興を**<br>～新たな思考を産業振興の中にどう取り込むか～<br>講師　一般社団法人福島県中小企業診断協会　会長　渡辺　正彦 氏 |
| 第2部<br>15:20～16:50 | …福島で除染を実践する科学者のメッセージ、ふたたび…<br>**福島における放射性廃棄物のリサイクル化が可能になった！**<br>～福島県の環境回復迅速化のために～<br>講師　東京大学先端科学技術研究センター教授<br>東京大学アイソトープ総合センター　センター長　児玉　龍彦 氏 |

**参加費** 無料

**申込方法** 下記申込書に必要事項をご記入のうえ、FAX送信していただくか、またはホームページよりお申込みください。

FAX 024－534－5432
ホームページ
http://fukushima-sr.jp

**●託児コーナー**
就学前までのお子様 8 名以内
同会場にて講演会時間内、お子様の一時預かりをご利用いただけます。
ご希望の際は、2月23日までにお申込みください。

## 「東日本大震災復興支援講演会」参加申込書

| | |
|---|---|
| お名前<br>参加人数 | 名 |
| 会社名 | |
| 電話番号 | －　－ |
| ご住所 | （〒　－　） |
| 託児コーナーの希望 | 有　（　歳　ヶ月）・　無 |

※ご記入いただいた個人情報は、ご本人の承諾なく本講演会に関する連絡以外に使用しません。

主催　福島県社会保険労務士会　TEL 024-535-4430（9:00～17:30 土・日祝を除く）
〒960-8252　福島市御山字三本松19-3

## 第１部　13：40～15：10

# 今こそ創造的復興を
## ～新たな思考を産業振興の中にどう取り込むか～

**講師**　一般社団法人福島県中小企業診断協会
会長　**渡　辺　正　彦**氏

**【主な内容】**

経営の正念場を迎えようとしている福島の事業者。
その現状と将来像を過去の阪神淡路大震災や福島県の産業構造の特質等を通して見据え、産業振興の在り方や事業者の復興のためのキーワードとしての“オープンイノベーション”や“複雑系の思考”についても解説する。

**【略　歴】**

1977年東邦銀行入行。長年にわたり経営支援・事業再生部門の責任者として従事。東邦銀行常務取締役、福島大学客員教授等を歴任し、現在、福島県よろず支援拠点チーフコーディネーター、(一社)福島県中小企業診断協会会長、オールふくしまサポート委員会委員長、渡辺地域経営研究所所長などを務める。

## 第２部　15：20～16：50

# 福島における放射性廃棄物のリサイクル化が可能になった！
## ～福島県の環境回復迅速化のために～

**講師**　東京大学先端科学技術研究センター教授
東京大学アイソトープ総合センター
センター長　**児　玉　龍　彦**氏

**【主な内容】**

福島第一原発事故により多量の放射性物質が飛散し環境汚染が深刻な問題となり、環境回復のため除染作業が進められたが、その除染後には、大量の放射性廃棄物が生み出された。現在、放射性廃棄物の処理の遅れが復興の妨げとなっている。放射性廃棄物からセシウム137を回収することで放射性廃棄物のリサイクル化が可能になる。５年前『放射線の人体への影響、除染について』と題して、放射能の被害から国民と子供、お母さんを守るメッセージを送ったが、再び登壇して、リサイクル化におけるリサイクル施設の具体的な問題点、容量と経費と場所について講演する。

**【略　歴】**

1977年、東京大学医学部医学科卒業。
マサチューセッツ工科大学生物学部研究員を経て、東京大学先端科学技術研究センター教授。
2011年より東京大学アイソトープ総合センター長兼任。